



見上げる心

令和8年(2026年)3月13日 第9号



<https://www.shinkawa-j.sapporo-c.ed.jp>

第50回卒業証書授与式 学校長式辞

校長 南山 雅礼

今年は雪解けが早く、春の息吹が感じられる今日の佳き日。本日、ここに第五十回卒業証書授与式を挙行できますこと、たいへん嬉しく思います。

ただいま卒業証書を手渡した百十七名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

振り返れば、私が四月に新しくこの新川中学校に着任したとき、一番最初に私を安心させてくれたのは、皆さんの姿でした。朝の玄関での挨拶や校内ですれ違う際、明るく、気軽に声をかけてくれたこと。慣れない環境にいた私を、本当に温かく迎え入れてくれました。皆さんのその飾らない優しさと、人懐っこい笑顔に、私自身がどれほど励まされ、「新川中の一員」になれたことを嬉しく思ったか分かりません。心から感謝しています。

そんな皆さんと過ごした一年間、多くの輝く場面を目の当たりにしました。

修学旅行での学年レクの盛り上がり。自分たちで楽しみを創り出し、学年全体が一つになって熱狂するあの圧倒的なエネルギーに、皆さんの絆の深さを知りました。

そして、新川祭。最高学年として体育館に響かせたあの歌声や演奏は、今も私の耳に残っています。後輩たちの道標となるような、力強く、そして繊細なハーモニー。まさに「先輩としての誇り」そのものであり、新川中学校の歴史に、鮮やかで美しい1ページを加えてくれました。

本校は今年、創立五十周年という大きな節目を迎えました。

半世紀という長い歴史のバトンを繋ぎ、その記念すべき年の卒業生として歩んだ皆さんは、新川中学校の誇りです。これから進む道は、それぞれ異なります。時には困難にぶつかることもあるでしょう。しかし、本校で見せてくれた「人を温かく迎え入れる優しさ」と、「何事にも全力で取り組むエネルギー」があれば、必ず自分らしい道を切り拓いていけると確信しています。

保護者の皆様、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。

今日、立派に成長し、卒業証書を手にしたお子様の姿を見て、感無量のことと拝察いたします。





思い返せば三年前、少し大きめの制服に身を包み、緊張した面持ちで校門をくぐったあの日から今日まで。お子様が歩んできた道は、決して平坦なものばかりではなかったと思います。時には悩み、壁にぶつかり、立ち止まったこともあったことでしょう。そんな時、一番近くでその背中を支え、励ましの言葉をかけ続けてこられたのは、他ならぬ保護者の皆様でした。

注いでこられた無償の愛と、本校の教育活動に対する多大なる御理解、御協力があったからこそ、今日という日を迎えることができました。お子様は愛情をしっかりと心の糧にして、逞しく、そして優しく成長いたしました。どうぞ、今日は立派に成長したお子様の姿を御自身のこれまでの歩みと重ね合わせ、共に歩んだ三年間を心から祝福してあげてください。

また、日頃から生徒たちを温かく見守ってくださっている地域の皆様、皆様の支えがあったからこそ、この五十回目の卒業式を無事に迎えることができました。重ねて御礼申し上げます。

結びに、卒業生の皆さんへ。

春には桜が舞い、冬には白銀に染まるこの新川の景色は、これから先、皆さんがどこへ行こうとも変わらぬ「心のふるさと」です。人生の途上で迷ったとき、立ち止まったときは、この新川での日々を思い出してください。

第五十期卒業生という輝く伝統を背負い、一步一步、自分らしく力強く踏み出していくことを期待しています。皆さんの前途に幸多からんことを心から祈念し、式辞といたします。

オリンピック選手が母校訪問

本校を卒業し、ミラノ・コルティナオリンピックのスノーボード・ハーフパイプ競技で銅メダルを獲得した山田琉聖選手と5位に入賞した工藤璃星選手が、このたび新川中学校を訪問してくださいました。当日は、生徒からの質問に丁寧に答えくださり、「競技を始めたきっかけ」「オリンピックを目指すまでの努力」「支えてくれる人への感謝を忘れないこと」など、トップアスリートならではの経験を



を交えながらお話し

してくださいました。また、夢や目標をもつことの大切さや、挑戦を続けることの意味についても語ってくださり、生徒たちは真剣な表情で話に耳を傾けていました。

母校の先輩の活躍や言葉に触れることで、生徒たちにとって自分の将来や目標について考える大変貴重な機会となりました。

